

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書②

岐阜県立池田高等学校 学校番号 20

I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「向学・友愛・錬磨」の下、明るく規律ある学校生活を通して、「知・徳・体」の調和のとれた人間性豊かな、心身ともに健全な人間形成を期すとともに、持続可能な社会の発展に貢献できる人間の育成に努める。		
2 スクール・ポリシー	<p>『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)</p> <p>① 身につけた知識やスキルを活かして、自立(自律)し、自分で考え、困難に立ち向かう努力ができる生徒</p> <p>② 個性や知性を武器に、環境の変化を恐れず、自信をもって挑戦できる生徒</p> <p>③ ユネスコスクールの理念を誇りに思い、持続可能な地域・社会・未来の実現に向けて、多様な人々と協働しながら、地域のリーダーとして行動できる生徒</p>	<p>『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)</p> <p>① 生徒の能力や学習状況等に応じて常に工夫改善し、生徒自らが学力の定着と向上を図っていく探究的な授業を実施します。</p> <p>② 培った知識・スキルを活かし、主体・協働的な活動を通じて、キャリアステージにつなげる「総合的な探究の時間」を実施します。</p> <p>③ ユネスコスクールとしてESDを推進し、グローバルな視点を持ちながら、地域と協働する実践的な探究活動を実施します。</p>	<p>『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)</p> <p>① 将来の夢や目標に向け、自分の基礎を築き、自分の強みを伸ばすために、探究的な学びに挑戦したい生徒</p> <p>② 自身をしっかりと見つめ、さらに多様な他者との対話を通して、考えを広め深める体験がしたい生徒</p> <p>③ ユネスコスクールの理念に賛同し、福祉・環境・国際等の分野で活躍したい生徒</p>

3 評価する領域・分野	◇生徒指導・教育相談・特別活動		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>・「本校では、いじめや差別を許さず、厳しく対応している。」について生徒は84.3%（昨年度より8.3%上昇）、保護者は70.9%（昨年度より8.6%上昇）と肯定的評価をしている。しかし、保護者は「わからない」が23.8%回答しているため、いじめ対応について保護者への共有を密に行う必要がある。</p> <p>・「悩みや相談事に親切に対応してくれる先生が多い。」について生徒から88.5%の高い支持を得ている。「学校は、個々の生徒の相談に丁寧に対応している。」について保護者から74.2%の支持を得ている。</p> <p>・学校行事分野「本校では、ボランティア活動の大切さを教える同時にその機会を提供している。」について生徒は85.1%の支持をしている。対して保護者は75.8%と評価が下がるが、昨年度よりは5.0%上昇しているため、生徒の意識が高まり家庭で共有されていると考えられる。</p>		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒の自己指導能力・規範意識を向上させることで安心安全な環境を整備し、挑戦を核とした学校文化を醸成します。		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	生徒部会、企画委員会、各学年会、職員会議、各種委員会などを通じて、全職員の共通理解を図る。 生徒指導委員会、特活指導委員会、学校保健安全委員会、人権教育委員会、性教育委員会、特別支援教育員会、防災管理委員会、いじめ防止等対策検討会議		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<p>(1) 全職員による遅刻防止、身だしなみ、交通安全、情報モラル指導等の生活指導を充実し、18歳成年を見通して自律心を身に付けさせる。</p> <p>(2) 専門家の助言を活用するなど、不登校傾向の生徒に寄り添った教育相談を充実させ、チームで丁寧な対応にあたる。</p> <p>(3) 生徒会やMSリーダーズ、ボランティア部を中心に地域と協働し、ボランティア活動を通して生徒の意識と行動の変容を図る。</p>	<p>(1) 遅刻数、問題行動件数、いじめ認知件数の増減</p> <p>(2) 評価アンケートにおいて、肯定的評価80%以上</p> <p>(3) MSリーダーズ等のボランティア活動状況及び生徒の意識・行動変容に関する調査</p>		

9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<p>・生徒指導担当者、副担任を中心として、登校時に交通・挨拶・遅刻指導を実施した。遅刻の回数を重ねる生徒に適宜指導を行った。 4月から12月までの遅刻数 292回 (昨年度より21回減少)</p> <p>・問題行動やいじめの未然防止、早期対応の徹底のために学年会の協力のもと校内巡視、クラスへの連絡、該当生徒への指導等を行った。 問題行動11件 (昨年度より4件増加) いじめの認知11件 [内アンケート誤入力5件] (昨年度より4件増加)</p> <p>・教育相談、i-check、迷惑調査、各種アンケートを通して、気になる生徒や問題を抱えた生徒に早期対応し情報共有した。スクールカウンセラーに繋ぐ必要があると判断した場合は速やかにスクールカウンセリング(スペシャリストサポート事業を含む)を行い、適切なケアをした。</p> <p>SOS教育や校内統一人権LHRなどの教育活動を行った際には、すぐメールやHPで保護者にお知らせをした。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症予防策の影響はほぼなくなり、MSリーダーズやボランティア部の生徒を中心に活発に活動を行った。 [池野駅及び通学路清掃活動、池田町街頭啓発活動、いびがわマラソン2023 等]</p>	<p>① 遅刻数、問題行動件数、いじめ認知件数が減少したか</p> <p>② 教育相談に関する学校評価アンケートにおいて、肯定的評価が80%以上か。</p> <p>③ MSリーダーズ等のボランティア活動がさかんに行われたか。</p>	<p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> A B C D</p>
<p>12 成果 課題</p>	<p>○遅刻予防の呼びかけを定期的に行い、二者面談や三者面談で生活習慣の振り返りを行うことで、度重なる遅刻を抑え遅刻の総回数を減少させることができた。</p> <p>○いじめの認知件数は増えたが、それは生徒のサインをキャッチすることができている、また、相談体制が整い生徒が訴えることができている結果である。それぞれの事案にチームでの対応を行い、解決へと繋げ、見守りを適切に行っている。1年生での初期指導を丁寧に行って、仲間づくりを支援し新生活への不安を軽減させた。</p> <p>▲問題行動・いじめ行為の根本にSNS上を含めたコミュニケーションでのトラブルがある場合が多い。人間関係を構築する力や修復する力が全体として弱い。</p>	<p>総合評価 A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p>
<p>13 来年度に向けての改善方策案 20日以上欠席するという長期欠席の生徒が増加している。集団生活への漠然とした不安感を抱く生徒、高校生活の目的を見失い登校できない生徒や人間関係上のささいなトラブルを修復できずに欠席を続ける生徒が増えている。面談等で自身の悩みを自覚し、自身の力で解決できるように支援していくことが必要である。また、対面での真のコミュニケーション能力を育成するために、授業や行事を通して協働する場を設定し、対話する機会を積極的に与えていかなければならない。そのノウハウを職員研修等で共有することが必要である。</p>		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月28日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <p>・生徒・保護者共に学校評価アンケートに肯定的な回答が多くなされており、生徒個々への指導効果が評価されている。今後も生徒個々に応じた早期の指導が求められている。指導の基盤には信頼関係が必要となり、生徒への「暖かい視線」をこれまで同様に大切にしてほしい。</p> <p>・悩み相談に対する支持向上、遅刻回数の減少など、指導の効果が表れている。</p> <p>・いじめや差別については非常にデリケートな部分であり、実際にどこまで情報を共有してよいのかと難しさを感じる。学校側と生徒と保護者との連携を大切にしつつ、個人情報を守る必要がある。</p>
--

- ・高校生は人と自分を比べ劣等感を感じているようだ。何かしらに打ち込んで自己肯定感を高められる環境があるとよい。
- ・授業に対して前向きに取り組む様子や気持ちのよい挨拶から、豊かな心が育っているように感じる。不登校については中学校でも同じように課題意識をもっており、現状の交流や指導の方向について共に考える場があるとありがたい。情報連携をもとに、生徒本人の『特性の自覚』を促すことが対応のポイントであると考えます。
- ・ボランティア部の活動が素晴らしい。全校的な取り組みへと広がることを期待する。